

読み合わせC 炎上のモーテル

※地の文はトーマスが読み上げてください。

時計は午前3:10を指している。

分岐①:トーマス → テオ に投票 / テオ → トーマス に投票した場合

2人の間に沈黙が訪れる。「白骨化した人物を殺した犯人」が誰なのか考えた時、遂にお互いの疑いを晴らすことは出来なかった。テオが肩をすくめ、乾いた笑みを浮かべる。

テオ「ナイスだな。……これって、映画で言う”バッドエンド”ってやつか？」
トーマス「この状況じゃ、仕方ないな」

ここからどうするか。視線が交わり、一瞬、空気が張り詰めた。その時、駐車場にビューと風が吹いた。テオは、そういえば先ほどからガソリンの匂いが漂っていたことを思い出した。遠くで何かが軋む音がする。

そして――

分岐②:トーマスとテオのどちらも「その他」に投票した場合

2人の間に沈黙が訪れる。トーマスはゆっくりと息を吐いて、考えを口にした。

トーマス「俺たち以外に犯人が居ることは確かだろう」
テオ「ザッツライト。俺たち、同じこと考えてたみてえだ」

視線が交わる。そこに疑いはなかった。2人は信じあい、同じ答えを選んだのだ。

トーマス「さて、どうやって犯人を捕まえるかだが……痕跡を追うしかないか」
テオ「オーケー、ダディ」

テオは何故トーマスを「ダディ」と呼んでしまったのだろう。2人が顔を見合わせた、その刹那――

ドンッ！！ と大きな爆音がした。モーテルから炎が上がる。

トーマス「――っ！？ モーテルが……爆発した！？」
テオ「ホーリーシット……マジで言ってんのか！？」

炎の向こうから、影がひとつ。ゆっくりと歩いてくる。

トーマス「……あれは……誰だ……？」

テオ「おいおい、ガソリントank抱えてんじゃねえか！？ やべえって、あいつ！ モーター燃やしたのか！？」

赤髪の男は、抱えていたタンクを放り投げる。

トーマス「このままじゃまた爆発するぞ！ 伏せろ！！」

テオ「答えはノーだ！ あいつを取り押さえる！」

トーマスの制止も聞かず、テオは走り出す。

トーマス「待て、テオ！ 無茶だ！」

テオ「無茶？ そいつは、オレのトレードマークだ」

男が、ナイフを抜いて突進してくる。先ほど見つけた『Aiden Crowley(エイデン・クロウリー)』の身分証に載っていた男だ。

テオ「ナイフ持ちとか、フェアじゃないねえ！」

トーマス「下がれ！ 危険だ！ 俺の後ろに隠れている」

テオ「.....ハッ、守ってもらうようなタマじゃねえよ」

炎の赤が2人を照らす。やらなければ、やられる。その緊迫感の中、テオとトーマスの2人は選択を迫られていた。

最後の選択フェイズを開始してください
